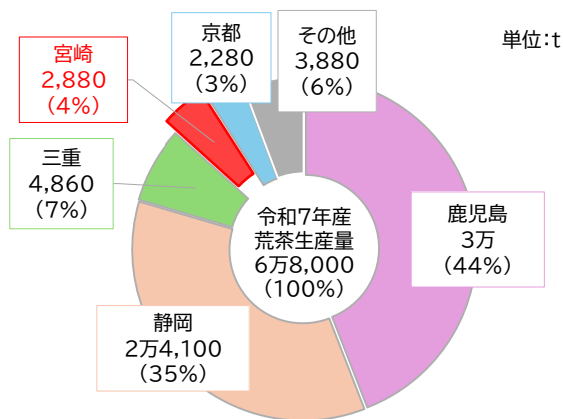


# データで見る宮崎の茶!!

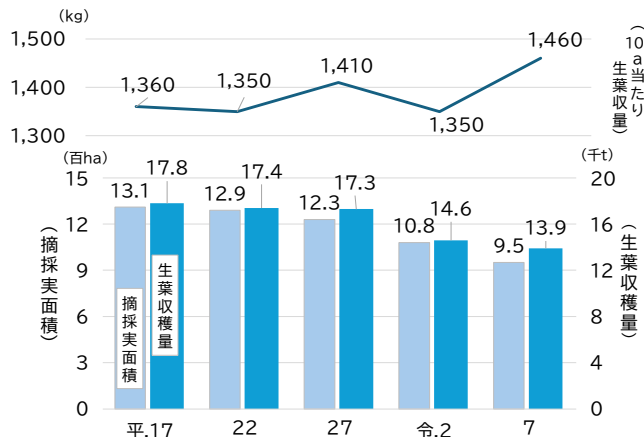
- 令和7年産茶の全国の摘採実面積は2万5,400haで、荒茶生産量は6万8,000 tとなりました。そのうち宮崎県は摘採実面積950ha、荒茶生産量2,880 tで**全国4位**の産地となっています。
  - 宮崎県における令和7年産の生葉収穫量は1万3,900 t、10a当たり生葉収量は1,460kgとなりました。
- ※荒茶とは、茶葉(生葉)を蒸熱、揉み操作、乾燥等の加工処理を行い製造したもので、仕上げ茶として再製する以前のものをいう。

府県別荒茶生産量 (主産県)



注: 割合については、表示単位未満を四捨五入しているため、合計値と内訳の計が一致しない。

摘採実面積、10a当たり生葉収量及び生葉収穫量の推移 (宮崎)



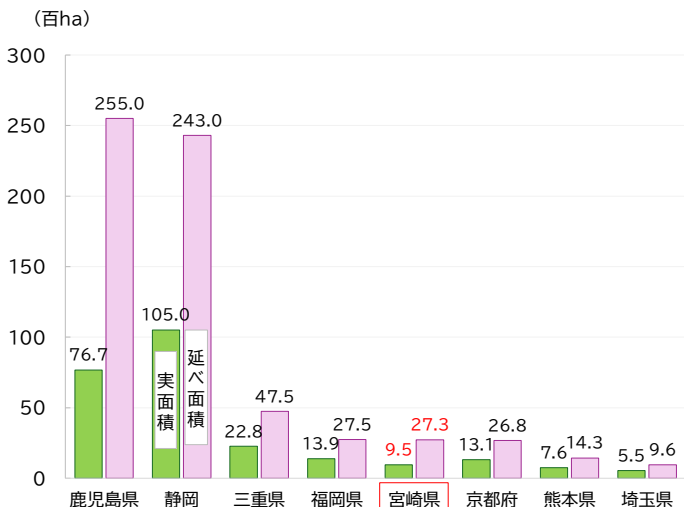
資料: 農林水産省「茶の摘採面積、10a当たり生葉収量、生葉収穫量・荒茶生産量」

## 令和7年産茶

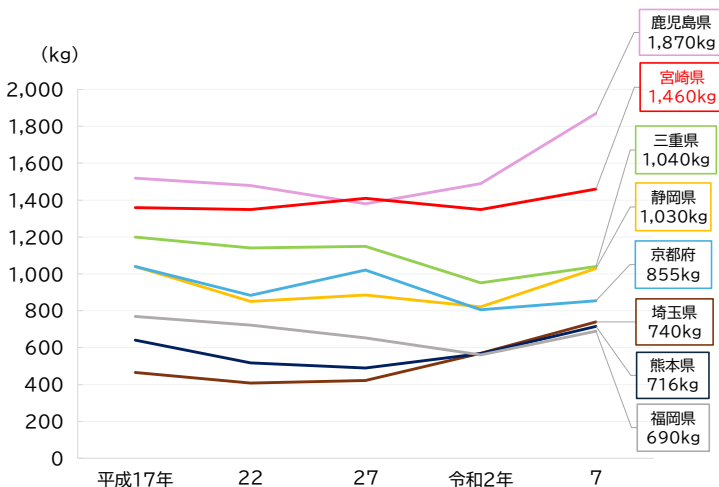
### 結果概要

宮崎県の令和7年産茶の摘採実面積は950ha、摘採延べ面積は2,730haとなっています。各府県の実面積と延べ面積を比較すると鹿児島県の332%から埼玉県の174%までと差のある結果となりました。(宮崎県は287%)  
また、宮崎県の10a当たり生葉収量は1,460kgと鹿児島県に次いで2番目の収量となっています。10a当たり生葉収量は、各府県の気候や栽培形態、摘採延べ面積等の影響で差のある結果となりました。

府県別摘採面積(主産県)



府県別10a当たり生葉収量(主産県)



### 注: 摘採面積

摘採(実)面積とは、茶を栽培している面積のうち、収穫を目的として茶葉の摘取りが行われた(実)面積をいい、摘採延べ面積とは、同一茶園で複数回摘採された場合の延べ面積をいう。